

海岸環境、海岸利用およびサーフスポットに関するアンケート調査

東北工業大学大学院 学生員 ○小嶋 博明
東北工業大学 正 員 高橋 敏彦

1. はじめに

従来海岸法は、「津波、高潮、波浪等による被害から海岸を防護する」という1つの目的であったが1999年に海岸法が改正され、「海岸環境の整備と保全」及び「公衆の海岸の適正な利用」が追加され海岸の「防護」、「環境」、「利用」の3つが目的となった。しかし、海岸環境や海岸利用に着目して研究している例は少なくほとんど検討されていない。そこで本研究は、サーファー、一般の海岸利用者、本学学生を対象とし海岸環境、海岸利用およびサーフスポットに関するアンケート調査を行った。

2. 調査内容

(1) 調査場所および調査期間

アンケート調査場所は、宮城県仙台市内の通称仙台新港といわれるサーフスポットである。図-1 にサーフスポットの概略図を示す。仙台港の南防波堤の南側に位置している。調査期間は、2010年8/9日(月)10日(火)および8/27日(金)、30日(月)、31日(火)、9/1日(水)、2日(木)、4日(土)5日(日)の9日間である。



図-1 仙台新港サーフスポット
概略図

(2) 調査項目および調査方法

調査項目は人物像(性別、年齢、職業)、サーフィン歴、使用ボード、事前情報源、好む碎波波高、好む碎波形式、主に行くサーフスポット(場所、場所選定理由)、海岸に対する興味の有無、主に利用する海岸、海岸環境の変化および要望、仙台新港における新設駐車場への評価、等である。調査方法は主として向洋海浜公園駐車場にてアンケート用紙に記入してもらう。またはヒアリングによる調査である。なお、本学学生のアンケートはある講義中の時間にアンケート用紙に記入してもらったものである。

3. 調査結果及び考察

(1) アンケート集計人数

図-2 は今回のアンケート調査で回収したアンケートの人数割合を、男性サーファー、女性サーファー、一般の海岸利用の男性、女性(以降一般男性、一般女性と記述する)、本学学生に分類して図示したものである。男性サーファーが60.8%で最も多く、続いて女性サーファーが13.9%である。以下、本学学生が10.4%、一般男性が8.6%、一般女性が6.3%と続いている。人数としてはサーファー322人、一般64人、本学学生45人でアンケートの全回収人数は431人である。

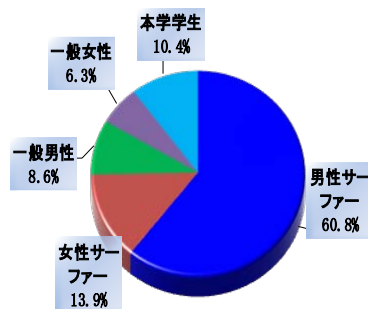


図-2 アンケート回収割合

(2) サーファー、一般の海岸利用者における住居割合

図-3 はサーファー(N=322)、一般の海岸利用者(N=64)の住居割合を図示したものである。図より、アンケート調査場所が仙台新港ということで仙台市内に住居を持つサーファー、一般の海岸利用者共に50%程度で最も多くなっている。一般の海岸利用者也サーファーとほぼ同様な住居割合となっており、その他県内を含めると宮城県に住まいを持つ人はいずれも70%程度となっている。また県外に住居を持つサーファーが27.0%という結果で、県外から仙台新港をサーフ

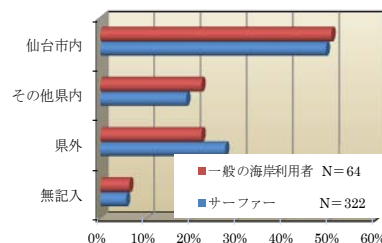


図-3 サーファーの住居割合

キーワード：仙台新港、海岸利用、サーフスポット、サーファー、海岸環境、アンケート調査

〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1 東北工業大学 工学部 建設システム工学科

TEL: 022-305-3539 FAX: 022-305-3501

スポットとして利用するサーファーが多数いることが分かる。なお、県外から訪れるサーファーの約7割が関東圏に住居を持っていた。

(3) 海岸環境への興味の有無

図-4 は、海岸環境への興味の有無を5段階評価に分類しサーファー(N=322)、一般の海岸利用者(N=64)、本学学生(N=45)の回答を比較し図示したものである。興味が「非常にある」「ある」と回答したサーファーの割合は80.2%、一般が68.8%、本学学生が51.1%となっている。一方、興味が「あまりない」「ない」と回答したサーファーはほぼ0で、一般が15.6%、本学学生が24.5%となっており、サーファーの海岸環境への意識の高さが伺える。

(4) 海岸環境の変化、ゴミの増減割合

図-5 は、ゴミの増減における「増えた」「変わらない」「減った」の3段階評価によるサーファー(N=322)の回答割合を図示したものである。図より、「ゴミが増えた」が最も多く48.1%、続いて無記入の20.2%、「変わらない」の19.9%で「ゴミが減った」という回答は11.8%で最も少ない。近年ではサーファーによるビーチクリーン、サーフショップ主催での清掃活動も頻繁に行われているものの、多くのサーファーは以前より海岸にゴミが増えていると感じていることが明確に分かる。

(5) 県内、県外サーファー別砂浜の増減割合比較

図-6 は、ここ数年の砂浜の増減における「増えた」「変わらない」「減った」の3段階評価による回答割合を、県内サーファー(N=217)、県外サーファーに(N=87)分類し図示したものである。図より、県外サーファーが「砂浜が減った」という割合が県内サーファーと比較し大幅に多く、その割合は5割を超えている。県外サーファーの約7割は関東の海岸をホームグラウンドにしていることから県内の海岸より砂浜の減少が大きいと思われる。

(6) 県内、県外サーファー別サーフスポットへの要望

図-7 は、サーフスポットに対して必要なもの、または無い方がよいものを複数要望も可で、記述式の質問に対する回答結果の割合を県内サーファー(N=217)、県外サーファー(N=87)に分類し図示したものである。なお、住居無記入のサーファーは除外している。図より、最も多い要望として県内、県外サーファーともにトイレの設置次いでシャワーの設置となっている。この2つの要望が他の要望に比べ多くなっており、県内、県外サーファーともにこのような設備の充実を最も求めていることが分かる。また全ての要望に対して県外サーファーの要求割合が多く、特にトイレの設置に関しては顕著である。

4. おわりに

今回の調査ではサーファー、一般の海岸利用者、本学学生を対象にしてアンケート調査を行った。その結果、それぞれのグループの海岸環境、海岸利用に関する意識の違いなどが明らかになった。また、同じサーファーでも県内と県外に居住している場合に、砂浜の増減に対する認識やサーフスポットへの要望の違いなどが示された。

<参考文献>

1) 千葉透雄・渡部一徳・高橋敏彦: 仙台市近郊のサーファーの動向調査, 平成16年度土木学会東北支部, pp. 350-351, 2006

2) 千葉透雄・高橋敏彦・新井信一: 仙台市近郊の海岸におけるサーファーの利用動向及び海岸環境に関する意識調査, 海洋開発論文集, vol. 22, pp. 169-174, 2006

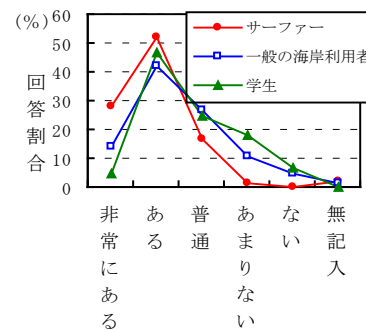


図-4 海岸環境への興味比較

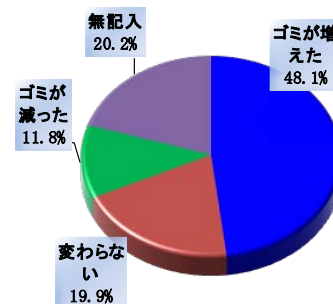


図-5 ゴミの増減割合

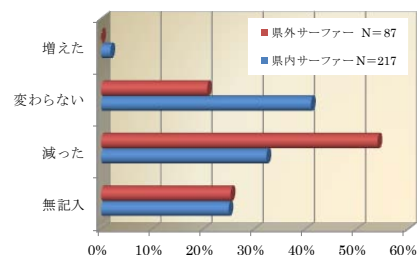


図-6 砂浜の増減割合比較

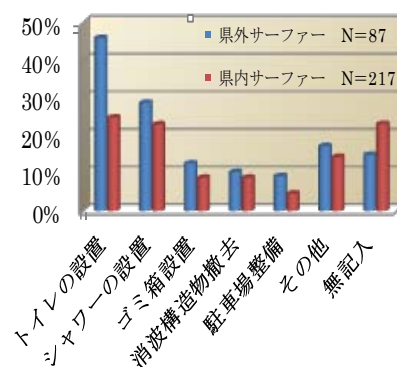


図-7 サーフスポットへの要望